



(朝日新聞社説余滴)

「ハチドリのひとしずく」 増谷文生 を読んで

2021年4月4日 朝日新聞朝刊

増谷文生が朝日新聞のコラム「社説余滴」で次のように述べている。『ハチドリのひとしずく』という南米の民話をご存じだろうか。燃える森に一滴ずつ水を落とすハチドリが、「そんなことをして何になるのか」と動物たちに問われ、「私にできることをしているだけ」と答える話だ。仕事に疲れ、「これでいいのかな」と迷いが出てきた時、私はよく思い出す。なぜか毎回ウルツと来て、ほどなく、「できることをやるしかないじゃないか」と気を取り直している。』

日々の生活で、できることを続ける。大志を抱くことも、野望を持つことも人間を象徴させるに違いない。しかし、今できることを行う。毎日の水やりが花には必要。一滴では不足かもしれない。

でも、何もしなければ、何も無い。水を一滴垂らせば、土は水を吸う。

## 検定案内

4月26日校内申込  
締切日の全工協検定

- ・ 第52回機械製図検定
- ・ 第84回計算技術検定
- ・ 第66回情報技術検定